

とやま舞台芸術祭 2012  
総合プロデューサー・小泉 博

富山県オペラ協会 第2回オペラ公演  
安念千重子プロデュース

Engelbert Humperdinck

Hänsel und Gretel

# ヘンゼルとグレーテル

〈全3幕〉

E.フンパーディンク作曲  
日本語上演・富山県オペラ協会版

富山県民会館

2012年11月24日(土)

午後2時開演

(午後1時30分開場予定)



主催：とやま舞台芸術祭実行委員会 共催：富山県芸術文化協会、富山県、(公財)富山県文化振興財団、富山市、(公財)富山市民文化事業団、南砺市、北日本新聞社  
後援：富山県邦楽協会、富山県洋舞協会、富山県オペラ協会、富山県オーケストラ連盟、富山県舞台技術研究会、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、  
一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会、とやまソフトセンター



## 祝 辞

富山県知事 石井 隆一

このたび、「とやま舞台芸術祭 2012」が開催されますことを心からお祝い申し上げます。「とやま舞台芸術祭」では、これまで、優れた舞台芸術の創造と交流をめざして、県内芸術文化団体等による数多くの素晴らしい舞台が繰り広げられてきました。

今年度も9月に演劇の聖地として世界的に知られている利賀芸術公園において、邦楽公演「幽郷の雅」や音楽朗読劇「モリー先生との火曜日」が開催され、ご来場の皆様に大きな感動を与えたところです。

また、本日のオペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」のほか、来年3月には大正琴公演が行われます。

本日の公演は、ドイツの作曲家フンパーディンクがグリム童話を基に創作した作品を日本語で上演されると伺っています。

オペラは、音楽に演劇や絵画の要素も加わり、歌唱、演奏、舞台美術、照明などが一体となって、一つの舞台を創りあげる総合芸術と言われています。県内芸術文化活動の拠点となっている「富山県民会館」を舞台に、富山県オペラ協会会長である安念千重子先生がプロデュースされる本公演は、先の公演同様、必ずやご来場の皆様方を魅了し、深い感銘を与えるものと確信しています。

終わりに、開催に尽力されました社団法人富山県芸術文化協会をはじめ関係の皆様へ深く敬意を表しますとともに、本公演のご盛況と皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。



## ごあいさつ

富山県芸術文化協会会長 小泉 博

前回の県オペラ協会の第1回オペラ公演『フィガロの結婚』（2011年10月）が終わってしばらくしたころ、ある会議の席上で「妻が大のオペラ好きなので仕方なく後について行ったら、あのよう高いレベルのオペラをこんな田舎で見られるとは予想外の幸運だった」という手放しの称賛をある方からお聞きして、田舎とは失礼な、と思う反面、我がことのように嬉しかったものです。この方は県外から仕事の関係で富山に住むようになられた方でした。そのせいであまり富山の実情をご存じなかったということもあったのでしょう。しかし考えてみると、まだまだ「こんな田舎で…」というフレーズが言われる状況が時折見られます。僭越ながら常々思うのですが、オペラも含めて、いまだに何か「東京」のほうを向きすぎている人が多いのは残念です。現に今では富山出身でヨーロッパの歌劇場で活躍している優秀なプロの歌手は何人もいます。

今回も、かつて東京ではメゾソプラノでこの人ありと言われた安念千重子会長のプロデュースのもと、演出の加藤徹先生と、また強力なアシスタントとして與志子夫人がぴったり息を合わせて、富山県オペラ協会が総力を結集して、ここ富山でしか出来ない、フンパーディンクの代表作とも言うべき『ヘンゼルとグレーテル』が上演されます。『フィガロの結婚』とはまた一味もふた味も違う妙味が発揮されると期待しています。

2012年7-8月に富山で行われた「とやま世界こども舞台芸術祭 2012」の興奮がまだ冷めやらぬ頃に、またもや子供たちが気楽に鑑賞できるオペラが披露されることに、ほんとに富山の芸術文化の層の厚さが実感できます。

『ヘンゼルとグレーテル』の成功を心より祈念して止みません。



## オペラを愛する皆様へのごあいさつ

富山県オペラ協会名誉会長 浅岡 節夫

本日ここに昨年のフィガロの結婚に引き続き第2回富山県オペラ協会オペラ公演の「ヘンゼルとグレーテル」が開催できましたこと心から喜びたいと思います。偏にご来場の皆様と変らぬご支援を賜りました各方面のお力と感謝申し上げる次第です。

今回とり上げました「ヘンゼルとグレーテル」はドイツのエンゲルベルト・フンパーディンクの作曲によるもので、毎年クリスマス頃になると多く取り上げられ、日本でも愛されているオペラ作品である。グリム童話から来ているとあって、とかくオペラ作品としては低いのでは？と思われがちだが、フンパーディンク自身はかつてワグナーの助手としてパルシファルの後半の一部を書いたと云われる程の人であり、この作品は世界中で上演され、後に音楽大学の教授ともなった人でもある。

それはさておき、オペラの魅力についてちょっとふれるなら、オペラは芸能・娯楽という一面があり、その題材も時代と共に大きく変化してとり上げるものも広がってきている。単純明快なストーリーに音楽のロマン、それにバレエや児童合唱も加わって大人も子供も楽しめるオペラが展開されるこのオペラをどうか最後まで楽しみいただければと思います。

終りにご健闘の出演の各位、指揮・演出・制作にあられた各位に深く感謝いたします。



## ごあいさつ

富山県芸術文化協会副会長  
富山県オペラ協会会長 安念 千重子

皆様、本日は富山県オペラ協会第2回オペラ公演、エンゲルベルト・フンパーディンク作曲「ヘンゼルとグレーテル」にご来場いただき誠に有難うございます。今年は皆様に親しまれている童話作家、グリムの出版記念 200年ということもあり、クリスマスに一足早いメルヘンオペラの位置付けで開幕いたします。発足して3年、協会として暗中模索を続けながらの公演ですが、社会情勢の厳しい時期だからこそ元気をささねばと、関係者一同心を一つに公演に向け努力を重ねております。

昨年の「フィガロの結婚」の経験をふまえての今回の公演、「出来得る限り自分達の力を出し合って舞台を創ろう」との方針で進めてまいりましたが、芸術には終着駅はないのです。常に高い目標に向かい挑戦し続けなければ何も生まれない！気の遠くなるような時間と努力の積み重ねがなければ、人の心を動かすことは出来ないのです。オペラは言うまでもなく総合舞台芸術、歌い手だけのものではなく、其々の分野でのエキスパートが同じ目標に手を携えることで成り立つのです。先般、ノーベル賞を受賞された山中教授の言葉に、失敗を恐れず、諦めることなく実験を続けることが成功に繋がる。当協会もまだ幼な児、地道に公演を続けることで、何時の日か富山県に音楽文化の花が根付く事を信じ、その夢に向かい歩み続けたいと存じます。どうか皆様には育つには時間が必要ということをご理解いただき、温かく見守っていただけると嬉しく存じます。

# ヘンゼルとグレーテル

作曲：E. ファンパーディンク 日本語上演・富山県オペラ協会版

プロデュース：安念千重子

指揮：坂本和彦 演出：加藤 徹

《キャスト》

ヘンゼル：横内 桂子  
グレーテル：四津谷 泰子  
ペーター：山本 一誠  
ゲルトルート：碓井 智子  
魔女：伊東 康孝  
露の精：金盛 佑香  
眠りの精：村上 育子

《合唱》

富山県オペラ協会少年少女合唱団

《バレエ》

可西舞踊研究所 和田朝子舞踊研究所

管弦楽：富山シティフィルハーモニー管弦楽団

コレペティトゥーア：丸山美由紀 副指揮：金岡秀典／福田光太郎

振付：可西晴香／和田伊通子

舞台製作：トムスタジオ 舞台製作協力：三協テック(株)北陸カンパニー／(有)東海産業

舞台監督：桶谷玉希 照明：渡部佳子 衣裳：加藤與志子

練習監修：浅岡節夫 練習ピアノ：清水香里 内橋綾野 山辺裕子 森田夏海

制作・指導：加藤與志子 串田淑子 制作スタッフ：豊谷阿沙子

## ヘンゼルとグレーテル

### あらすじ

#### 第一幕

貧乏な箒作りのペーターとその妻ゲルトルートにはヘンゼルとグレーテルという二人の子供がいた。今日も父は箒売りに出かけているが、生活は苦しい。母も留守なのをいいことに仕事をさぼって外に遊びに出ている二人はそっと家に戻ってくる。兄のヘンゼルは、長い間美味しい物を食べていないと嘆くが、妹のグレーテルは隣のおばさんにももらったミルクの事を兄に教えて、今日の晩御飯までの我慢を促す。それでも仕事には気が向かないヘンゼルはグレーテルと一緒に踊ろうと提案する。二人の踊りが最高潮に達した時、母が帰ってくる。怒る母が振り回した棒は机の上のミルク壺を直撃し、ミルクはこぼれ、壺もわれてしまう。途方に暮れた母は二人にせめてミルクの代わりに森でイチゴを摘んでくるようにと言って追い出す。疲れきって机に伏せている母のところに酔ってご機嫌な父ペーターが帰ってくる。酔っ払いの夫に腹を立てる妻だったが、ペーターの持って帰ったお土産に気分は一転。祭りの前のお陰で箒やはたきが全部売れたようだ。ご機嫌なペーターが子供達の所在を聞くと、そんな事より壺が割れたと嘆く母だった。そんな事も笑い飛ばせる今日のペーターだったが、子供達が森に行った事を聞いた途端、そこにあった箒を取り上げて森に住むお菓子の魔女の話を始める。最初バカにしていたゲルトルートもペーターの熱のこもった説明に急に子供達が心配になり、森に向かって飛び出して行く。ペーターもその後を追って出て行くところで一幕が降りる。途切れず続いていく間奏は聴衆を森へといざなう。

#### 第二幕

グレーテルは森の中で歌をうたいながら花の冠を作っている。ヘンゼルはイチゴをかごいっぱい摘んでグレーテルのところに戻ってくる。どこからか聞こえてきたカッコーの声につられて、二人で摘んで来たイチゴを食べてしまった頃には、あたりは深い暗闇につつまれていた。帰り道がわからなくなってしまった二人にとって、森はどこを見ても恐ろしいお化けや幽霊であった。その時、木の上に眠りの精が現れ二人を甘い夢に誘う。木陰で眠りについた二人のまわりに14人の天使が現れて二幕を終える。

#### 第三幕

森の中で気持ちよく目をさましたヘンゼルとグレーテルは、お互いに見た素晴らしい夢が同じだった事を確かめあった。その時、突然森の奥にお菓子の家が現れる。甘い匂いに誘われて思わずお菓子の家の壁をむしりつつ食べ始めた二人の前に老婆が現れ、捕まってしまう。すきを見て逃げ出そうとした時、老婆は魔女に変身。ヘンゼルをオリの中に入れ、グレーテルには仕事をさせる。ヘンゼルを先に食べてしまいたい魔女はヘンゼルに指を見せるように言うが、ヘンゼルは指の代わりに細い木の枝を見せる。耳が遠く、目も悪い魔女はヘンゼルが中々太らない事に我慢できず、グレーテルを先にかまどで焼いてしまおうと考える。火の様子を見させて後ろから投げ込むつもりが、グレーテルのとっさの機転で代わりにかまどの中へ閉じ込められてしまう。魔女をやっつけたと喜ぶ二人。次の瞬間、あたりが暗くなり、お菓子だった塀のところにまだ魔法にかかっている子供たちが現れる。魔女の残っていた杖で子供達をもとの姿に戻したヘンゼルとグレーテルのところに父と母が駆け付ける。そのときかまどが爆発して、中からビスケットになった魔女が現れ「苦しいときに神様が助けてくださる」と一同は神に感謝して幕を閉じる。

# グリム童話とフンパーディンクのオペラ 「ヘンゼルとグレーテル」の間にあるもの

演出 加藤 徹

ドイツ語辞典、文法の研究でも知られるヤーコブ・グリム Jacob・Grimm (1785-1863)、ウィルヘルム・グリム Wilhelm・Grimm (1786-1859) の兄弟はドイツの民話を採取してまとめ、1812年に「家庭と子供の為の童話」として「かえるの王様」「いばら姫」等とともに「ヘンゼルとグレーテル」を含む86話の初版を刊行した。兄弟は伝えられた話に限りなく忠実に発表しようとした為、内容はリアルで残酷なものとなる事もあった。飢餓に苦しむ貧しい家族にとって生きて行く為の食いぶちを減らす事は、つまりは子捨てにつながる。さらに魔女伝説ともかさなり、初版では、グレーテルを殺そうとした魔女の顔が、森に捨てた実母の顔に見え、突然湧きあがった不思議な力で魔女を竈に押し込んだとある。その後、何回かの刊行を重ねて実母が継母と置き換えられたり(第4刊)、表現が柔らかくなったり、帰り道に鴨が川を渡らせてくれたりとの改訂があった。200以上に及ぶグリムの編集したメルヒェンに、エンゲルベルト・フンパーディンク Engelbert・Humperdinck (1854-1921) は心ひかれた事を自分の日記に記しているが、イルメンという研究者はフンパーディンクの言説としてオペラ「ヘンゼルとグレーテル」の原材は、その頃ドイツ圏でグリムより多く読まれていたメルヒェン作者であるルートヴィヒ・ベヒシュタイン Ludwig・Bechstein (1801-1860) の作品だという。1890年、フンパーディンクの妹アデルハイト・ヴェットは夫の誕生日に音楽会を企画し、この「ヘンゼルとグレーテル」の中から、自らの台本によって「一緒に踊ろう」等4曲の作曲を兄に依頼した。こうして出来た作品は、歌と語りによるリーダー・シュピールとしてこの家庭音楽会に発表された。やがて音楽劇ジグシュピールとなり、ワーグナーに傾倒し、助手としてオペラ「パルジファル」を手伝ったフンパーディンクによって、以前からの彼の夢であったこのオペラの誕生となった。童話とオペラとの関係が深い作品に「シンデレラ(灰かぶり)」がある。この作品も、グリム童話の初版に「ヘンゼルとグレーテル」とともに載っているものは、シンデレラもその母も魔女で、自分をいじめていた姉二人は最後に目をくり抜かれ、それを何食わぬ顔で見えていたとある。この作品はすでにシャルル・ペロー Charles Perrault (1628-1703) によって世に出されており、後に残されているお話では、結婚後姉二人を城に呼んで世話までしたように書かれている。さらにオペラの作曲家ジョアッキーノ・ロッシーニ Gioachino・Rossini (1792-1868) はニコラ・イズアール Nicolas・Isouard (1775-1818) 作曲のオペラ「サンドリヨン(シンデレラ)」をもとに、その時代のローマ市民に受けるように内容を変えた。王子の家庭教師がみすぼらしい身なりになって王妃探しに出かけ、シンデレラの家を訪ねる。そしてシンデレラは、舞踏会で使用人に化けた王子と恋に落ちるというロマンチックなオペラ「チェネントラ」として作り上げた。この二つのオペラに共通するのは魔法、魔女、妖精等の言い伝えだが、民話にはある種の教訓や教えが含まれており、大きな大陸であるヨーロッパでは、狩り

による獲物が食生活の糧であった人々にとって、豊かな森は最も大切なスペースであり、そこを守る妖精や魔女、そして魔法が登場するのは考えられる事である。原作は原作として、オペラの世界での偉大な作曲家達は、そのような題材に刺激されて新たな世界を作り上げていた。悪い魔女に勇気をふるって立ち向かい、囚われの身になっていた子供達をも助けた二人の子供達の物語を、心理学者達は母に頼っていた子供達の成長として取り上げているが、フンパーディンクは、ワーグナーからの壮大な響きを受け継いだオーケストレーションと、旋律が登場人物を鮮明に浮き上がらせるライトモチーフによって、聴衆を幻想の世界に導くのである。その顕著なサンプルとして、魔法をかける旋律と魔法が解けるモチーフのやりとりがあげられるだろう。魔女が「ホークス、ポークス、ヘクセンシュス!」と魔法をかけた上降する旋律は、グレーテルが魔女の杖を使ってヘンゼルの鍵を開けた下降する旋律と全く対象型をとっている。そしてフンパーディンクはワーグナーのように、このオペラに序曲と呼ばず前奏曲とした導入を使った。その中には下降する魔法の解けるモチーフはなんども現れるが、上降するモチーフは出てこない。そこには深い森の美しい響きと、子供達の明るい表情を現わすリズムによって作り上げられる雰囲気がある。それらがかえって裏に森の中で起こるこれからの怖さを浮かびあげていると言えるのであろう。作り上げたフンパーディンクのこの「ヘンゼルとグレーテル」は、民話とはまた違った感動をオペラとしての手法で伝えようとしている。

## 【初演】

1893年12月23日 ヴァイマール宮廷劇場  
(予定されていた初演 1893年12月14日 ミュンヘン)

## 【指揮】

リヒャルト・シュトラウス  
(予定されていた指揮者 ヘルマン・レヴィ)  
グレーテル役のハンナ・ボルヒャースの病気の為

## 【キャスト】

グレーテル = マリー・カイザー  
(予定されていたグレーテル イーダ・シューベルト)  
ヘンゼル = イーダ・シューベルト  
(予定されていたヘンゼル パウリーネ・デ・アーナ 体調不良の為)  
ペーター = フェルディナント・ヴィーダ  
ゲルトルート = ルイーゼ・ティベルティ  
魔女 = ヘルミーネ・フィンク

## 補足

初演には楽譜の到着が遅れ序曲(前奏曲)は演奏されなかった。

# ヘンゼルとグレーテル

## 《指揮》 坂本 和彦

東京音楽大学指揮科卒業。三石精一氏に師事。チューリッヒ音楽院へ留学。F. ライトナー、F. エーゲルマン両氏に師事。チューリッヒ歌劇場にて研究員から副指揮を四年半。1986年『三人の女達の物語』でデビュー。以後各団体で活躍。2009年

東京芸術劇場でオペラ『ひかりのゆりかご』の指揮・音楽監督を務める。また、同年日本フィルにてヴェルディ『レクイエム』を指揮し、絶賛を得る。(新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京交響楽団等を指揮。) 2009年11月12日、天皇陛下御在位20年、御成婚50年の慶祝行事にて奉祝曲を指揮。2011年10月に富山県オペラ協会の「フィガロの結婚」を指揮。

現在、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師、東京音楽大学・大学院、同付属高校講師、日本オペラ振興会会員指揮者、日本指揮者協会幹事、岐阜県サラマンカホール音楽監督。



## 《演出》 加藤 徹

都立駒場高校(現都立芸術高校)卒、洗足学園音楽大学ピアノ科及び同専攻科修了。

ピアノを渡辺千世、ジョン・ハント、マックス・エッガー、伴奏法を小林道夫諸氏に師事。

ルツヴァンサンプル、富山カンマーソリスト、ムジークシュトゥーベ等の室内楽のシリーズの他、ヴァイオリニストのアテフ・ハリム、テノールの故ウィリアム・ウー氏らのリサイタルピアニストを務める。オペラでは二期会、東京室内オペラピアニスト、餐場知昭、築地文夫、ウィリアム・ウー各氏オペラ授業を担当。加藤と志子と共にトムスタジオを立ち上げオペラ公演活動を始める。演出ではトムスタジオの公演の他、魚津短期大学での公演、東京ヤマハエレクトーンシティでのメイトオペラ公演、ミュザ川崎での川崎市民オペラ、北アルプス文化センター国際音楽祭、射水市ラポール文化センターでのオペラシリーズ第二回公演、洗足学園音楽大学マスターズコンサートでの6年間続くオペラシリーズを手掛けている。これまでに「椿姫」「こもり」「ラ・ボエム」「魔笛」「フィガロの結婚」「修道女アンジェリカ」「アマールと夜の訪問者」等。今回の「ヘンゼルとグレーテル」はこれまでに7つの会場で10数回の公演を演出している。

現在 洗足学園音楽大学教授、国土館大学講師、富山県オペラ協会理事。

## 《出演者のプロフィール》

## 《ヘンゼル》 横内 桂子

富山県富山市出身。富山県立呉羽高校音楽コース卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。平成9年富山県青少年音楽コンクール最優秀賞受賞。平成15年富山県新人音楽コンクール新人賞、富山県知事賞。2007年アジア国際音楽コンクール社

会人部門第2位。2008年富山県民会館にて東京フィルハーモニー交響楽団と共演し、松村禎三作曲〜ソプラノ、打楽器と11人の奏者のための「阿知女」を歌い好評を得る。2009年イタリアにて「アレッシサンドロ・カラマイ マスタークラス」を受講。イタリア政府認定修了証明書を取得。2007年、2010年には富山・東京でジョイントリサイタルを開催。高橋大海、牧野美紀子、嶺貞子、黒崎隆憲の各氏に師事。日本声楽家協会研究員。日本声楽アカデミー会員。富山県声楽家協会会員。富山音楽協会会員。富山県オペラ協会会員。富山音楽院声楽講師。



## 《グレーテル》 四津谷 泰子

洗足学園魚津短期大学を経て、洗足学園大学音楽学部声楽専攻卒業。二期会オペラストゥーティオ第47期修了。声楽を碓井智子、山根比奈子の各氏に師事。短期大学を首席で卒業し、卒業演奏会に出演。また、定期演奏会にソロで出演。オペラでは、「ヘンゼルと

グレーテル」「フィガロの結婚」、コンサートではモーツァルト「レクイエム」「悔悟するダヴィデ」等出演。その他ジョイントコンサート等に出演。日本声楽アカデミー準会員、二期会会員。富山県オペラ協会会員。



## 《ペーター》 山本 一誠

国立音楽大学声楽科卒。モーツァルト、フォーレ、デュルフレの「レクイエム」、ショスタコーヴィチの「森の歌」等のバスソリストや、オペラ「フィガロの結婚」のフィガロ、「ドンジョバンニ」のレポレロ、「コシファントウツテ」のドンアルフォンソ

等モーツァルト作品の他、メノッティの「アマールと夜の訪問者」では、メルヒオール、バルタザール、プッチーニのオペラ「ボエム」のマルチェッロ、「蝶々夫人」のシャープレス等を好演。富山県立保育専門学院勤務。



## 《ゲルトルート》 碓井 智子

富山県富山市出身。武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業。東京藝術大学別科声楽科修了。ウィーン国立音楽大学夏季セミナーに参加。ハンス・ホッター教授による「ドイツ語歌曲マスタークラス」ミュンヘンにて修了。ヨセフ・ロイブル教授による「声楽マスターク

ラス」ドイツ・エルマウにて修了。ソレイユ新人オーディション合格(優秀賞受賞)。友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール第2位受賞。1996年より毎年ソロコンサートを行う。オーケストラ・アンサンブル金沢首席チェロ奏者ルドヴィート・カンタ氏をはじめ、ベルリンよりヴォルフラム・リーガー氏をパートナーに迎えリサイタルを行う。その他、オペラ、コンサートソリストなど演奏活動を行う一方、ミュージカル、舞台、合唱団のヴォイストレーナーとして後進の指導にも力を入れる。現在、富山県立呉羽高等学校音楽コース非常勤講師、富山県オペラ協会理事、M・すふえら主宰。



## 《魔女》 伊東 康孝

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。藤田昌克、北村雅彦、田口道子の各氏に師事。これまでオペラ公演のソリストとして富山市民オペラ「手古奈」「お小夜」、富山県高岡文化ホール主催「フィガロの結婚」、新川文化ホール主催「ジャンニ・スキッキ」、(財)富山

市民文化事業団主催「ジョン・ミョンフン指揮オペラ」ラ・ボエム」等出演する。また、ベートーヴェン「第九」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」等のテノール・ソロとして演奏会に多数出演するなど、精力的に演奏活動を展開している。2010年5月には北村雅彦氏らとジョイントリサイタルを開催し、好評を博した。2011年10月富山県オペラ協会第1回公演「フィガロの結婚」にバジリオ及びドン・クルツィオ役で出演。

富山県声楽家協会会員。富山県オペラ協会事務局次長。現在、富山県立富山北部高等学校教諭。



## 《露の精》 金盛 佑香

富山県立呉羽高等学校音楽コース卒業。国立音楽大学声楽学科卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部研究生修了。声楽を小宮順子、牧野美紀子、勝本章子、浅岡光代の各氏に師事。これまでに、『パスティアンとパスティエ

ンヌ』にパスティエンヌ役、『メーゼ・マリアーノ』にヴァレンティナー役、『魔笛』に夜の女王役で出演。また、邦楽の演奏会において、宮城道雄の歌曲などで邦楽楽器とも多く共演している。東京シティオペラ協会会員。富山県オペラ協会会員。

## 《眠りの精》 村上 育子



国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ研究所第46期マスタークラス修了。第4回富山県青少年音楽コンクールにて、声楽部門最優秀賞受賞。第9回富山県新人演奏会にて、北日本新聞音楽奨励賞受賞。2010年、ヴォーカル・アンサンブル・レガーロを結成。

グループ名の「レガーロ」とは、イタリア語で「贈り物」という意味。今年の夏には、初めての主催コンサート「子どもも大人も楽しくクラシック!レガーロサマーコンサート」を開催し、好評を博す。現在、富山福祉短期大学講師、富山大学附属幼稚園グリーンコーラス部講師、富山YMCA歌声広場わいわい講師、ヴォーカル・アンサンブル・レガーロ主宰、二期会会員。富山県オペラ協会事務局。

《バレエ》  
可西舞踊研究所



石川 茉優



日下 葵



宮川 結衣



吉田 祐子



島 彩乃



鍋田 愛莉



今村 かすみ



藤本 紫衣奈



田辺 和香



緑川 雅月



安藤 流奈



日下 菜



松永 千空



永井 香奈子

《バレエ・合唱》  
和田朝子舞踊研究所



土井野 理央



上田 奈穂



大竹 萌絵



上田 百華



中澤 陽美



水木 莉緒



前田 桃花



作道 董



宅美 明香里



吉谷 侑里子



福本 真由



嶋 結理子

《合唱》  
富山県オペラ協会少年少女合唱団



細川 真緒



内橋 来琉未



五十嵐 諒子



稲垣 光喜



早川 菜摘



ゾロチキヒナ・リリアナ



細川 育歩



杉本 英莉子



三箇 二千夏



夏野 紗希

《管弦楽》  
富山シティフィルハーモニー管弦楽団



1st Vn. 宮本 範子 (コンサートミストレス)  
辻 久直 / 仲井 美賀  
名執 純子 / 又場 龍大  
松村 司

2nd Vn. 朝木 晴美 / 阿閉 博美  
塩崎 章子 / 沼田 典子  
松下 亮 / 吉澤 真弓

Va. 久保悠希乃 / 藤井 優哉  
前川 仁志 / 安村 美佳

Vc. 新町 栄一 / 西谷 英輔  
朴谷 修 / 堀田 五月

Cb. 柳橋 禎子 / 吉澤 克仁

Fl. 伊藤ひでみ / 摺出寺敬子

Ob. 北岡 明 / 保科 浩一

Cl. 住吉友紀子 / 古川 友紀

Fg. 篠崎 秀一 / 永原 千春

Hr. 坂井 禎 / 安川 哲二

Tp. 荒野 晃代 / 南 昌樹

Perc. 女川 好野 / 塩田 惇  
高本 篤志 / 花房 清直

Harp 照田真由美

《アンダースタディー》

ヘンゼル：馬 渡 彩 音      ペーター：酒 井 雄 一  
グレートル：谷 村 清 香      ゲルトルート：山 本 千 鶴



# 温かいご支援に感謝いたします



富山県オペラ協会

リードケミカル株式会社

(株)内山精工

大沢内科クリニック

可西舞踊研究所

学校法人富山音楽院

山元醸造(株)

米原商事(株)

網谷ヒデ子	大成 勝代	重松 秀子	中川 洋司	藤原 節子
安念 邦夫	岡田 睦子	島 美恵子	中田 勝代	松本 喜二
五十嵐信夫	小澤 眞琴	島崎 清孝	中土 昌則	丸山美由紀
池田 瑛子	加藤 徹	島田 典故	西野 正彬	宗景 昭
石間 照子	金森 敏子	進士 京子	濱四津董子	本木 英子
稲葉 実	栗谷 恭三	関野 節子	林 攻	山辺 美嗣
井上五三男	栗谷 良野	大門 清廣	平井 和輝	山本 郁夫
岩城 静子	古賀 盛大	高松 眞	平井きよみ	山本 一誠
大沢 すみ	酒井和佳子	中川 光子	平井 岑生	利田みさき

(50音順・敬称略)

## 富山県オペラ協会「維持会員」ご入会のお誘い

〈文化で富山を元気に!〉に向け、皆様のご理解と、温かいご支援を賜りたく、  
下記要綱にてご賛同いただきたくご入会をお待ちしております。

維持会員 年会費 (4月～翌年3月)

個人会員 1口 1万円 (何口でも) 法人会員 1口 3万円 (何口でも)

●公演プログラムに「ご芳名・貴社名」を記載させていただきます。 ●公演のお席を優先予約させていただきます。

お申込み・お問い合わせ 富山県オペラ協会事務局 Tel/Fax 076-473-2572  
〒930-0412 富山県上市町広野 905-1 内山太一 方

### ◆次回公演予定◆

第2回 ニューイヤー ガラコンサート	▶ 2013年1月6日 14:00	富山県教育文化会館
第2回 フレッシュコンサート	▶ 2013年8月30日(金) 18:30	富山市民プラザ アンサンブルホール
		出演者オーディション・3月31日(日) 芸創創造センター予定

編集・発行: とやま舞台芸術祭実行委員会

〒930-0096 富山県舟橋北町7-1 富山県教育文化館内 (社)富山県芸術文化協会

TEL.076-441-8635 (内線123) FAX.076-442-4635 E-mail: info@tiatf.or.jp URL: http://www.tiatf.or.jp